

学校便り



浅海

松山市立浅海小学校

2019.6.10

お田植祭に思う

校長 芳野 妙美

6月6日（木）、上難波にある愛媛県農林水産研究所でお田植祭が行われました。毎年、近隣四校の5年生が参加させていただいています。今年の浅海の5年生は女子二人、かわいい早乙女姿に着替え、豊穰を願いながら田植えを体験しました。

私自身小学生の頃、農繁期には両親に連れられて、祖父母の田に行っていた思い出があります。広がる水田の水面に風が吹き、波形ができる光景はとても涼しげだったのを覚えています。

私はまだ小さかったので、田植えはさせてもらえませんでした。もっぱら、親戚の幼い子たちの子守担当。それでも子どもなりに自分の与えられた仕事に満足していたように思います。

収穫の時期には、私も作業に参加していました。縛った稲穂を「稲木」にかける作業です。乾燥機などはない時代ですから、収穫の後ほどの田んぼにも稲木が並んでいました。それも、見かけることはめったにない今日この頃です。

また、当時、米作りの作業といえば親戚・ご近所などが集まり、大勢で協力して行っていたものですが、機械化や後継者不足などにより、そのような習慣もなくなっています。私が子どもの頃の米作りは「人の力」、現在は「機械の力」による効率化が目立ち、便利な反面人と人の交流が薄れ、やや寂しさも感じます。

しかし、このお田植祭という行事に参加させていただいて、「機械の力」だけではないことに気づきました。農林水産研究所では、消費者に、より品質のよいもの・おいしいものを提供しようと日々研究を行っています。試食会では、新種のお米で作ったおにぎりや米ゲルで作った生チョコなどを準備してくださり、私たちに「この食材が早く店頭には並ばないかなあ。」という思いをもたせてくれました。これらの食材には、研究者の方たちの何年もの努力が詰まっているのです。

「人の力」は消えてはいません。形を変えて「人の知恵」となっていたことにあらためて気づかされた行事でした。

題字の左にある花の写真は、農林水産研究所が栽培しているデルフィニウム『さくらひめ』です。お田植祭の帰りにいただきました。淡いピンクの小花が集まり、とても可憐な姿をしています。ここにも「人の知恵」が集まっているに違いありません。



3世代交流もちつき大会

5月12日(日)、3世代交流もちつき大会が行われました。晴天にも恵まれ、皆様のご協力のおかげで、餅をついたりまるめたり、投げたりと、本当に心温まる交流会となりました。前日からの準備、当日の片付けに至るまで、ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。



1年生を迎える会

5月16日(木)、新しく浅海っ子に加わった1年生2名を迎える会を開きました。かわいい1年生のために、2年生から6年生が工夫を凝らした劇やクイズ、手作りの衣装で歓迎の気持ちを伝えました。体育館を泳ぐ2匹の鯉のように、のびのびと成長してほしいと願っています。



最高の思い出!! 修学旅行

6年生が、5月23日(木)から1泊2日の日程で修学旅行に行ってきました。今年は、昨年と行き先が変わり、広島平和記念公園、マツダミュージアム、姫路城、姫路セントラルパークという行程です。近隣4校合同での修学旅行、友達との交流を深めながら最高の思い出を作りました。

